

第1回「モホール計画」国内研究者集会・議事録

場所：JAMSTEC 東京事務所

期日：2011年11月11日（金）14:00-17:00

参加者：28名

1. 集会の目的と国内外の最近の動向について（道林）

- ・ 集会の目的

はじめに集会の発起人である道林より、集会の目的について説明があった。

次期 IODP の New Science Plan においてもマントル掘削（モホール計画）は引き続き大きな柱であり、その実現に向けて次の3つの課題について協議したい。

（1）近々の掘削プロポーザルへの対応

（2）国際協調円滑化を含めた交渉事項（特に掘削プロポーザルなど）に対して国内において必要な当面の体制の整備

（3）マントル掘削を掲げたアクションプラン（ワークショップ、サイエンス、アウトリーチなど）の設計

- ・ 国内外の最近の動向について

2010年と2011年のモホール計画に関連した行事が示された。

2. IODP の最新の動向について（柴田深海地球探査企画官：MEXT）

2011年8月のNSFレター後のIODP体制に関する現状について報告された。

- ・ IODP という国際フレームワークを持続させることは合意。
- ・ 「ちきゅう」「JR」「MSP」は財政的に独立して運航することとなり、プラットフォームの独立性は高くなる。
- ・ IODP の組織はIWG+で合意されたものよりも簡素化される（例えばPEPは維持するが、SIPCOMは廃止）。
- ・ 掘削プロポーザルについては、全て共通のPEPで科学評価等を経た後、それぞれの掘削船独自にスケジュール管理することとなる。
- ・ ちきゅうに対する掘削提案は、従来の議論の通り、ワークショップベースで実効化する認識である。
- ・ MEXT としては、日本人研究者が従来通り「JR」や「MSP」にも乗船して研究できるように引き続き関係各国と協議する。

3. 深海掘削検討会の経緯と報告書（道林）

- ・ 深海掘削検討会の概要、目的、メンバー、実施実績について、MEXTのWebページ等を用いて説明があった。また、その中で今後10年の主要目的はマントル掘削、島弧掘削、縁海掘削の3つであり、マントル掘削は引き続き今後10年でも主要課題であることが強調された。
- ・ 5月に深海掘削検討ワークショップが開催され、モホール計画に関する個別討議も行った。その時の課題として、科学的ポスト・モホの必要性、推進体制について指摘されたことが紹介された。
(パワーポイントスライドを配布予定)

4. 掘削候補地点の地震波反射構造調査の今後の予定（小平）

- ・ H23年度に予定されていたメキシコ沖掘削候補地点の事前調査は東日本大震災のために延期された。おそらくH25年度以降になる見込み。
- ・ 北西太平洋での地下構造探査を継続的に実施する予定。
- ・ モホール計画を推進する研究者コミュニティから事前調査要望を発信することが大切である。

5. 掘削候補地点3カ所の比較（最新版）（島）

- ・ 掘削候補地点3カ所の比較が最新の情報を含めて紹介された。
- ・ さらに9月に欧米の研究者が中心となって作成されたモホール計画に関するMDPプロポーザルの原稿について問題点が示された。
(パワーポイントスライドを配布予定)

集会後、12名が参加して夕食会が開催された。

期日：2011年11月12日（土）9:00-12:00

参加者：15名

6. 「モホール計画」の国内における当面の体制（道林）

- ・ モホール計画に関する情報の一元化とその共有ならびに国内における活動推進、さらに国際協調をより円滑に推進することを目的として、「モホール計画」の国内における当面の体制について議論した。その結果、ボランティアベースでコアメンバーを募って活動していくことが合意された。
- ・ 近々の状況（例えばMDPプロポーザルなど）に対応する必要もあり、海野進金沢大学教授をコアメンバーの代表としたことをはじめとして、出席したコアメンバーの中から役割を分担して活動することとした。

コアメンバー

海野進（金沢大学）（代表）

道林克禎（静岡大学）（庶務：ML, CDEX, MEXT 等との連絡，ML と HP の管理等）

小平秀一（JAMSTEC）木村純一（JAMSTEC）島伸和（神戸大学）

森下知晃（金沢大学）阿部なつ江（JAMSTEC）柵山徹也（JAMSTEC）

前田仁一郎（北海道大学）佐藤 壮（JAMSTEC）富士原敏也（JAMSTEC）

羽生 毅（JAMSTEC）山下幹也（JAMSTEC）

アドバイザー

巽 好幸（JAMSTEC）宮下純夫（新潟大学）荒井章司（金沢大学）

鳥海光弘（JAMSTEC）

- ・ 今後について，moholeML に集会の内容（議事録や PPT ファイル等）を発信して役割を担うコアメンバー（実際に仕事をする）参加者を募ること，コアメンバー内の情報共有を円滑にするために mohole-core メーリングリストを設定することとした．また，コアメンバーの活動内容は，モホール計画の進展によって柔軟に対応していくこととした．
- ・ 当面のコアメンバーのタスク
 - ✓ 国内体制におけるコアメンバーの Scoping Group に自薦，他薦
 - ✓ 12 月 4 日のサンフランシスコ会議における MDP プロポーザルの対応（項目 7.）
 - ✓ 来年度の国内集会やワークショップ等の企画と予算申請（森下が主担当）（項目 8.）
 - ✓ アウトリーチ：ニュースレター，出張授業，グッズ開発（阿部，道林が主担当）（項目 9.）

7. 掘削プロポーザルへの対応について（道林，阿部）

- ・ 9 月に欧米の研究者が中心となって作成されたモホール計画に関する MDP プロポーザルへの対応を協議した．
- ・ プロポーザル自体については，ポジティブに対応することとした．
- ・ MDP（Multiphase Drilling Proposal）について，定義が曖昧であることがプロポーザルの評価や修正をやりにくくしている状況にある．12 月 1~3 日にサンフランシスコで予定されている第 1 回 PEP において MDP の評価法が議論されるべきである．
- ・ プロポーザルの修正について
 - ✓ 2010 年 6 月の金沢ワークショップレポートとの整合性を図る
 - ✓ 金沢ワークショップ以降の最新関連情報を考慮する
 - ✓ 微生物関係の項目を充実すべき．
 - ✓ 深海掘削検討会の報告書との整合性を計るために，「Carbon cycle」をキーワードとして Introduction に加えたい．
 - ✓ Proposal の位置づけとして，原稿は Full proposal (25 p.)であるが，位置づけとしては Preliminary proposal (10 p.)でも良いかもしれない．

- ・ 欧米の研究者コミュニティへの対応
 - ✓ 今年 10 月時点において、12 月 4 日の pre-AGU ミーティングで大筋を決定して 1 月中に提出するシナリオが示されている。
 - ✓ 日本としては、4 月 1 日提出に同意した上で内容の推敲のため締め切りまで時間を有効に使うことを提案する。さらに、メールベースではコミュニケーションとして我々日本人には限界があるので、2 月 8 日前後に東京で Lead proponent による最終調整を実施して（旅費は異 IFREE）、2 月下旬に Co-proponent に回覧する日程で合意されることを目指す。

8. 掘削候補地点 3 カ所の事前調査まで掘削プロポーザルに関連した活動（道林）

- ・ Full proposal 作成は Site survey が実施される 2013(H25)以降である。それまでにすべきことは何か？
 - ✓ モホール計画の科学設計を深める
 - ✓ モホール計画前に提案可能な海洋地殻掘削を探る
 - ◇ モホール計画に関連してモホール計画には入らないもの
例：アウターライズ等
- ・ 国内ワークショップ
 - ✓ モホール計画を盛り上げるワークショップ
 - ◇ 掘削地点 3 カ所の比較検討（科学的、技術的、レビュー）
 - ◇ 地点毎にそれぞれ検討、または、分野毎に掘削地点を比較検討
 - ✓ 分野を広げるワークショップ
 - ◇ ハードロック掘削のレビュー（プロポーザルと過去の実績）
 - ✓ 若手の参加を促すような会をもちたい
 - ◇ ワークショップの他に勉強会など
 - ✓ 時期
 - ◇ 5 月の地球惑星科学連合大会の直後
 - ◇ 10 月~11 月
 - ◇ 国内学会におけるランチョン等
 - ✓ 予算
 - ◇ J-DESC 会員提案型活動経費
 - ◇ JAMSTEC フィジビリティ経費
 - ◇ 東大地震研や大気海洋研の共同利用申請
 - ◇ 科研費を含めた申請可能な補助金申請
- ・ 国際ワークショップ
 - ✓ 12 月の IODP-International WS への申請はしない。

- ✓ AGU の Session proposal : 将来的に検討

9. その他（道林）

- 「モホール計画」推進予算の確保
 - ✓ 特別推進研究に向けて、個人ベースの科研費取得を目指す
例：基盤研究 S
- 「モホール計画」関連特集号
 - ✓ ハードロック海洋掘削科学をテーマとして.
 - ✓ 地学雑誌の特集号が妥当.
 - ✓ 企画の時期：前回の特集号は 2008 年、2012 年または 2013 年に特集号を企画することを検討する.
 - ✓ 内容：国内ワークショップの内容をふまえて企画を検討する
- アウトリーチ活動
 - ✓ ホームページの充実とニュースレターの発行.
 - ✓ 出張授業
 - ◇ ニューイヤースクール
 - ◇ 一般向け講演会の実施
 - ◇ 文科省に積極的に後援を依頼することも大切.
 - ✓ 総説（岩波の科学や日経サイエンス等への投稿）
 - ✓ [モホール計画] 関連グッズの開発と販売（または自主制作して配布）

文責：道林克禎（静岡大学）